

寒川町総合計画審議会

「各分野における課題及びご提案について」

【分野別】

子育てについて（子育て支援、学校教育、家庭教育）

生涯学習について（スポーツ、地域文化、社会教育、郷土愛）

健康について（健康づくり、介護予防、医療体制）

福祉について（地域共生社会、障がい）

自然環境について（公園、自然、自然とのふれあい）

住環境について（空き家、地域美化、ペットとの共生、資源・ごみ）

安全・安心について（防災、消防、救急、交通安全、防犯）

都市インフラについて（道路、公共交通、下水道）

市街地について（倉見の都市未来拠点、寒川駅周辺の生活中心拠点、田端の産業集積拠点）

産業について（商業、工業、農業、観光、勤労状況）

協働（つながる力）について（自治会、ボランティア、協働事業）

行財政運営について（財政、広報、職員育成、庁舎）

分野 子育てについて（子育て支援、学校教育、家庭教育）

（黒沢委員）

課題 1	① 少人数学級・少人数学習の学年拡大 ② 病児・病後児保育のニーズが拡大している中で、町の体制が整っていない。
提案 1	① 寒川町の児童生徒にたいして、一人一人に対してしっかりと光を当て、更にきめ細やかな学習機会を提供する。 ② 子育てしやすい町として、病児・病後児保育を提供する。

（山蔦委員）

課題 2	1. 教育が町の発展に欠かせないことに、疑いの余地はありません。 しかし、町の学力（学力テストの正答率）は、長く低迷状態が続いています。教育長の「任期中に、神奈川県との平均値と遜色のないレベルにまで上げる」という約束が、本当に守られるのか？と疑う町民が多い様子です。 2. 教育は、学力だけでなく、自己肯定感や、家庭環境、福祉制度などと強く関係します。しかし、町には、これらを総合的に見る「考え」も「システム」もない様子です。
提案 2	1. 学力向上の約束を必ず果たすよう提案します。 2. 「福祉と教育の統合」を図るよう提案します。 → 箕面市では、市の専門職員が、支援が必要な児童、家庭、学校（教諭）を選び出し、総合的に指導しています。大阪府で「住みやすい市」一位を数年間続けたことのある市です。 別添 1

（小川委員）

課題 3	別添 2
提案 3	

（石橋委員）

課題 4	子ども向けのイベント等の募集について 障害児等配慮が必要な子どもの参加はできるのか。募集案内等には記載がない。 町外の特別支援学校に通っている子どもは地域の子どものとの交流の機会がなくなってしまうのではないか。
提案 4	合理的配慮でどのようなことができるのか募集案内に記載し、当該児童・生徒の家族等にも情報提供を行う。 子どものごころから障がい者等に接することによりヤングケアラー育成にも期待したい。

（千葉委員）

課題 5	学力向上
提案 5	若い世代の流入・定着が期待できる環境（緑豊か、安価な住宅供給等）はあるが、子どもの成長と共に、親の関心は学校教育とりわけ学力向上・人格形成に資する学校が整えられているかに向けられる。 「魅力ある学校作りに何が必要か」に結びつく施策立案を。

分野	生涯学習について（スポーツ、地域文化、社会教育、郷土愛）
----	------------------------------

（黒沢委員）

課題 6	① 町の郷土愛の醸成に向けた取り組みが見えない。
提案 6	① 寒川町の歴史・文化を先人から学ぶ機会を創設する。

（山蔦委員）

課題 7	<p>1. 町は、「寒川を、ストリートスポーツの聖地にする」との方針を打ち出しましたが、そのための予算 1.4 億円の執行を急遽「延期」しました。生産年齢人口を、ひいては税収を、どのぐらい増やすのかについて、今まで一回も説明はありません。</p> <p>2. 市民団体が開催する学習・講演会への住民の参加者が多く、逆に、町が主催する場合は住民の参加が少ないのが実情です。</p>
提案 7	<p>1. 「町をストリートスポーツの聖地化」する全ての施策を、コロナ禍の影響がなくなる時まで「凍結」し、この時までには、この施策で生まれるメリットを「数値」で示すよう提案します。</p> <p>2. 町主催の「生涯学習行事」を、今後、止めるよう提案します。 参加者が少なく非効率だからです。民間の町民の団体が主催し、そこに補助金を出して任せることによって、町民が効率良く学習ができ、併せて町の人件費や経費の節約ができます。 (参考) 三鷹市では、総合計画の策定委員になりたい市民のために、「委員になるための事前学習会」を行いました。</p>

（石橋委員）

課題 8	何かを学びたいと思うが、何をやっていいのかわからない。 町にはやりたいものがない。情報がない。サークル等は長くいる方ばかりで新しく入りにくい。
提案 8	町主催でいろいろな生涯学習講座を開催して学びのきっかけ作りをする。 定期的な情報発信を行う。 勤労者にも参加しやすい講座を開催する。 今までやったことのない講座も開催してみる。

（平本委員）

課題 9	BMX レーサーの選手を町で応援しているのはわかりますが、町民センターの前の駐車場にトレーニング用ができていてびっくりしました。この様な時に税金を使用するのはどうなのでしょう？
提案 9	

分野	健康について（健康づくり、介護予防、医療体制）
----	-------------------------

（黒沢委員）

課題 10	① 健康づくり、介護予防に関して、消極的な方々に対してのアプローチが困難な状況を打開する必要がある。
提案 10	① SNS や動画等の配信を積極的に行う体制を確立する。

(山蔦委員)

課題 1 1	<p>1. 一人あたりの医療費が減ったというデータを今まで見たことがありません。健康診査率を上げたら医療費が減り、健康になるのでしょうか？ その答えが必要です。介護予防も同じです。予防の効果で介護保険料が減ったという説明も今までありません。</p> <p>2. 町は、「良かれと思うことを積み上げれば、きっと良くなる」と考えているようですが、実績が出なければ、「間違った考え方」だと言われます。町の姿勢が問われています。</p>
提案 1 1	<p>どうやれば医療費・介護費用が減るのか？「要因の相関分析」をしっかり行い、感覚的ではなく「分析データ」を下にした対策を講ずるよう提案します。そうすれば、必ず成果が生まれ無駄も減ります。</p>

(石橋委員)

課題 1 2	<p>健康づくり講座に参加されている方々は、健康に関しての意識が高い。 むしろ心配なのは、参加しない方や病気のリスクの高い方の疾病・介護予防対策をどうすべきか。</p>
提案 1 2	<p>参加しやすい講座の開催や、今までの内容を見直してリスクの高い方には個別に連絡する。 勤労者にも参加しやすいもの また近隣市とも連携してバラエティにとんだものにする。</p>

分野 福祉について（地域共生社会、障がい）

(山蔦委員)

課題 1 3	<p>1. 町民憲章に「誰にも迷惑を掛けないようにしましょう」と書かれています。40ヶぐらい自治体の憲章を調べましたが、多くは、「ルールを守り、お互い助け合いましょう」と書かれています。 これは福祉の基本であり、決して小さな言葉の問題ではありません。寒川町は「迷惑は掛けて良い」町だと思っています。</p> <p>2. 「民生委員・児童委員」のなり手がいない、と聞きます。逗子市など定員以下で運営している自治体が全国にかなりの数あります。寒川町は、定員確保にこだわっているように思います。</p>
提案 1 3	<p>1. 町民憲章を、恥ずかしくない文言に変えることを提案します。 町が起案すれば、直ぐにも変えられると思います。</p> <p>2. 民生委員を、定員にこだわらず人物優先で選ぶよう提案します。 昔に比べ、民生委員の（法制上の）義務的な仕事はかなり減っているはずです。 2人ペアになってより広い区域をカバーするなどの工夫もあって良いと思います。 (注) この項目だけでなく、今回の提案は複数の町民から意見を聞いて作ったものです。</p>

(石橋委員)

課題 1 4	<p>障がい者のスポーツ教室は、ボッチャ、卓球、フライングディスクしかなく、障がい者のみでの参加で、障がいのない家族や友人等は参加できない。障がい者によってはもの足りない人もいる。 また、障がい者だけのコミュニティになってしまう。 健康スポーツ課は健常者だけ、福祉課は障がい者だけではなく共生するための支援について考えていきたい。</p>
提案 1 4	<p>平塚市内で開催されているユニバーサルデザインの手話ダンス教室では、障がい者、健常者の子どもから大人までと一緒に練習をしている。技術的なことを目指しているのではなく、障がいを理由に排除されることなく社会参加できることを目指している。町でも何か障がい者の理解や共生のためにできないだろうか。参考資料としてイベントチラシや広報紙を添付します。</p> <p>別添 3</p>

分野 自然環境について（公園、自然、自然とのふれあい）

（山蔦委員）

課題 15	1. 「水と緑の町さむかわ」は、町の良いところを的確に表していると思います。確かに、寒川に移住する理由の第三位は「自然の豊かさ」（複数の不動産業言）です。「子育てに良い町」と考える人が多いと思われます。 （注）移住理由の第一位は「土地・家賃の安さ」です。 2. 最近、「水と緑」からどんどん離れているように感じます。
提案 15	1. 住民登録時に、また不動産業界の協力を得て、町への移住の理由を5年～10年継続して調べることを提案します。信頼性の高いデータなしに「町の維持・発展戦略」は建てられないからです。 2. 住民中心で、町の自然の豊かさを守る、費用を入れた計画を作り、 それを実施する 「部隊」を作ること提案します。この種のテーマは役所主導ではうまく行きません。

分野 住環境について（空き家、地域美化、ペットとの共生、資源・ごみ）

（黒沢委員）

課題 16	① 焼却ごみの減量化について 寒川町は、ごみの焼却は茅ヶ崎市に委託しており、焼却灰の最終処分は、民間企業へ一部資源化、その他は埋め立て処理をしている。ごみの焼却、最終処分に大きな経費が必要となっている。これまで町民の皆様の理解と協力によってごみの減量化を進めてきたところだが、今後も焼却ごみの減量化は進めていかなくてはならない。 今後のついては、焼却ごみの大半を占める生ごみ（食物残渣）の資源化の有効性、実現性を本気になって検証する必要があると考える。生ごみの資源化ができれば、ごみの収集回数の削減、焼却ごみの減量による茅ヶ崎市への負担金の削減、最終処分にかかわる経費の削減が可能となり、町の財政に与える影響を少なくできると考える。
提案 16	① 先進地で行っている、生ごみを乳酸菌でたい肥化するなどの先進事例等を研究し、町での実現の可能性を検証すべきではないか。ごみ処理に係る経常経費の削減を目指すべき。

（山蔦委員）

課題 17	1. 町への移住理由の第一位は「土地・家賃の安さ」です（複数の不動産業言）。一方で、狭い道路の両側に住宅が建ち始めています。「地震・津波・大火に強い寒川町」というイメージを損ねます。ほとんどの近隣市に、市独自の都市計画があります。 2. 道路をゴミ集積場に行っている市は、どんどん減っています。第一「みっともない」です。町の「品格」を下げています。
提案 17	1. 地権者などの協力を得て、町民が納得できる、実現性の高い、「都市計画」を立案するよう提案します。 2. ゴミ収集を戸別収集に切り替えることを提案します。ゴミの総量が減ります（藤沢市の実績は約30%減）。ゴミ収集袋購入の負担が多少増えても、住民に受け入れられると思います。 リサイクルを崇めるのではなく、「ゴミの減量」や「もったいない思想」をもっと全面に出すよう提案します。 3. 地球規模のCO2の排出を小さな自治体が行なってもタカが知れています。本来これは、国が国の費用で対処すべき問題です。町は「費用対効果」の高いものだけ行うことを提案します。

分野 安全・安心について（防災、消防、救急、交通安全、防犯）

（黒沢委員）

課題 18	① コロナ禍における、新たな防災意識の醸成が必要。 ② 各家庭での防災対策には、女性の視点が重要となる。 ③ 町は、比較的平らな土地柄であることから自転車の利用者が多い。それに伴って自転車の事故も多くなっている。自転車の保険加入を推進する必要がある。
提案 18	① 感染症に対応した、防災訓練や避難所運営訓練の実施。特に避難所運営に関しては、職員の訓練が必須。 ② 防災対策を考える組織に、これまで以上に女性の視点を取り入れられるよう、組織の見直しや、積極的に女性委員を登用する。 ③ 自転車の保険加入を推進するため、町の条例を制定する。

（山蔦委員）

課題 19	1. 「やらないよりやった方が安心だ」、「想定外のことに備えるべきだ」と言えば、いくらお金があっても足らなくなります。 感情である「安心」を重視し、損害額や死傷率といった数値で表せる「安全性」を重要視しない風潮があるように思います。 2. 寒川町では、大地震の時は避難所に行かない方が良いと思いますが、出水時には避難するしかありません。しかし、情報の伝達、避難所（学校など）の整備にかなりの不備があります。 3. 火災による損失が大きく減った反面、救急費が増えています。
提案 19	1. まず「安全」にすることに集中することを提案します。そうすれば、ひとりで「安心感」が上がります。 2. 茅ヶ崎市のパークタウンでは、千の川の出水時に避難する階下の人を上層階の人が受け入れる「約束」ができています。地域の「助け合い網」を作れるよう町が支援することを提案します。 3. 消防費を見直し、救急の割合を高めるよう提案します。

（平本委員）

課題 20	昨年の台風による相模川氾濫による避難勧告がでしたが、避難した方はたくさんいたと思います。今年も又、あるかもしれません。この様な時に町ではコロナとの関連もありどの様な対応を考えているのでしょうか？
提案 20	

分野 都市インフラについて（道路、公共交通、下水道）

（山蔦委員）

課題 21	1. 町民の交通への関心は高いのですが（町長への手紙の件数統計：R1年度）高齢者の満足度は低いようです。 2. 相模線の複線化がなかなか進みません。 3. 幼稚園、介護施設、病院など、数種類の「送迎バス」が、重複して縦横無尽に町内を走っています。これは大きなムダです。
提案 21	1. 相模線の利用者を増やすよう達成可能な目標を設定して対策を打つことを提案します。JR任せにせず！ 2. 「送迎バス」の統合を提案します。相当、便利になりコストが下がります。高齢者の外出機会が増え満足度も上がります。 3. 愛知県の半田市では、「マイレポ半田」というシステムで、市民が道路などの不備をスマホ・写真付きで市に投稿し、年間50万円の経費で住民の満足度を上げています（議員視察済）。➡ このような「住民参加システム」の導入の検討を提案します。道路整備不良で請求される「損害賠償」も減ると思われます。

別添4

(内野委員)

課題 2 2	
提案 2 2	全町的な自転車道や歩道の整備が必要と考える。 相模線の複線化について、可能な箇所から複線化していく取組みを実施するべきと考える。

分野 市街地について（倉見の都市未来拠点、寒川駅周辺の生活中心拠点、田端の産業集積拠点）

(黒沢委員)

課題 2 3	① 田端西地区の街づくりには、町から多額の費用が投入される。参入企業をしっかりと見極める必要がある。
提案 2 3	① 参入企業決定までの、プロセスの確立、町が組合や業務代行者と意見交換ができる体制を確立する。

(山蔦委員)

課題 2 4	1. 総合計画について、「できもしない基本構想」を作り、それを下に「実施計画」を建てるのが「慣例」となっています。 2. 「拠点づくり」に掛ける「金・人」が分からず、「どのぐらい歳入を増やします」という説明も聞いたことがありません。町は、「夢を追い続けているだけだ」と住民に思われています。 3. 町は、生産年齢人口を増やせる「根拠」を何も説明していません。基盤産業の従業員を700人増やせば人口を1万人増やせる、という解析結果があります。（岡山大学中村教授の研究）➡
提案 2 4	1. 長期間の財源の裏付けのある「基本構想」を作り、また、コロナ禍後の税収予測と行政改革を直ぐにも始めるよう提案します。 2. 自治基本条例を改正し、町が事業を始める時、①成果目標、②使う経営資源(金と人)、③成果を出すまでの期間、④責任者を必ず示すことを、「町の責務」とするよう提案します。

(内野委員)

課題 2 5	
提案 2 5	寒川駅南口の整備を迅速に進める必要があると考える。また、速やかな整備を実施するためには、買収方式による実施が良いと考える。

分野 産業について（商業、工業、農業、観光、勤労状況）

(黒沢委員)

課題 2 6	① 新総合計画に「にぎわい交流創出ゾーン」が示された。このゾーンの具体的な目的、将来像やその手法についての明確化が必要。
提案 2 6	① にぎわい交流創設ゾーンについて検討を行う組織の立ち上げ。

(山蔦委員)

課題 27	<p>1. 基盤産業の数から見て、寒川町は全国有数の「企業の（製造業の）城下町」です。50年前に企業誘致した成果で潤ってきた町です。最近、この認識が薄れ始めていると感じます。</p> <p>2. 地方自治体が宗教団体を支援することはできません。伊勢神宮も浅草寺も川崎大師も皆、「民間」が観光振興を担っています。観光振興が町の基幹産業になり得るかについて、数年前、シンクタンクは「無理」との結論を町に出しています。</p>
提案 27	<p>1. 田端の開発は非常に重要です。これをを超える有利で確実な「投資先」はないと思います。施工組合の主体性を尊重し、予定した財源を町が確保するよう提案します。</p> <p>2. 神社を中心とした観光振興は、町はあまり口出しをせず、「神社中心」で進めるしかありません。一步引いて、寒川神社を支援に徹することを提案します。 別添5</p>

(石橋委員)

課題 28	財源確保のためにも、先のことを考え就労支援を近隣市との連携も含めて人口減少や2040年問題に備えておきたい。
提案 28	横浜市で行っている支援についての参考資料を添付します。 別添6

(千葉委員)

課題 29	<p>町にとっての観光面における最大の目玉は「寒川神社」である。</p> <p>町と神社が手を取り合って、にぎわいの創出に励んでいるようには見えない。</p>
提案 29	過去の経緯は存じ上げないが、町の発展を考えるなら観光を主力産業の1つに据えるべきであり、共存共栄の道は必ず見つかるはずである。

(鈴木委員)

課題 30	<p>寒川神社を核とした観光拠点の具体的な検討及びその実現</p> <p>寒川町の人口は約48,000人であり、今後は漸減傾向の見込みであり、財政的にも更に厳しくなることが予想されている。このような環境下で唯一、寒川神社の参拝客は安定的に推移しており、年間の観光客数195万人の多くが寒川神社への参拝客である。</p> <p>このような寒川町の活性化のために「寒川神社を核とした観光施設（商業施設）の建設」について具体的な検討が必要と思われる。</p> <p>例えば、果樹園収穫・販売及び農作物収穫・販売のような体験型施設とブランド力の高い飲食・レストランを併設するような商業施設の建設も1案かと思われる。</p>
提案 30	<p>寒川町、寒川神社及び有カデベロッパ等による「寒川神社を核とした観光施設建設」の検討委員会の設立</p> <ul style="list-style-type: none">・事業内容のコンセプト・事業の採算性・対象不動産の選定・資金調達の方法等を検討し、上記プランの実現性につき具体的に検討する。

(内野委員)

課題 31	
提案 31	<ul style="list-style-type: none">・耕作放棄地や後継者がいない農地を集約し、農地を効率的に再配置し、農業の生産性を向上させる施策が必要と考える。また、再配置によってできた用地を普通調整等にし、有効活用できるようにすべきと考える。・にぎわい交流創出ゾーンについて、単なる商業施設ではなく、農業、医療、防災、生涯学習、子育ての機能を含んだ総合的なエリアとして整備を行うべきと考える。

分野	協働（つながる力）について（自治会、ボランティア、協働事業）
----	--------------------------------

（山蔦委員）

課題 3 2	<p>1. 町の自治基本条例は「協働のまちづくり」を謳っていますが、まだ、「住民の意見を聞いているから協働になっている」と言う職員がいます。「住民が、対等な関係で行政に参画する」ことが「協働」です（町の説明）。住民が行政と対等に参画して作られていない今回の総合計画は、明らかに「協働」から外れています。</p> <p>2. 「対等」・「参画」になっていなければ、どうしても「住民は、町が意見を聞く先」になり、市民団体は「町が審査して補助金を与え、町の仕事を請けさせる団体」になってしまいます。</p>
提案 3 2	<p>1. 三鷹市、多治見市、君津市などの先進地を職員や住民が視察し、「住民参画の基本」を体得することを提案します。これらの市では、100人規模の公募市民が分科会に分かれて「市の将来」を議論して総合計画を作り、それを役所が脇から支援しています。</p> <p>2. 「ビジョン」ではなく「財源の裏付けのある、実現できる総合計画」を、「住民が作る」ためのルールを設けるよう提案します。この計画案を作る実質的な責任者は、任期のある首長や職員ではなく「住民」になります。</p> <p>別添 7</p>

（石橋委員）

課題 3 3	ボランティアのポイントがもらえるのが高齢者だけです。シニアの活躍の場を作るといっていますが、同じことをしてももらえない若い方たちはどう思うか。
提案 3 3	同様の特典があればボランティア希望者も増えるのではないか。

（千葉委員）

課題 3 4	<p>直近の町の家帯数微増にも係わらず、自治会加入率の激減が続くのは、関係者の一人として歯がゆい限りである。</p> <p>「自治会に加入せずとも生活には問題ない」というドライ感は若い層だけの問題ではないとも感じている。（困ったときには行政や自治会に持ち込むが）</p>
提案 3 4	ごみ問題を含む生活面で行政（町）と自治会は連携が取れていることを具体的に認識させる施策を講じる必要があるのでは。

分野	行財政運営について（財政、広報、職員育成、庁舎）
----	--------------------------

（黒沢委員）

提案 3 5	① 現在、公共施設の将来的な維持、管理について、検討を行っていが、中心となる庁舎の機能をどのようにするのが、示されないと他施設の在り方の結論が出せないと考える。
提案 3 5	① 様々な検証材料の提供、比較検討が着実に行える情報提供、検討を行う組織の創設。

(山蔦委員)

課題 36	1. 「コロナ禍」の影響は大きく、今後数年間、数億円単位の税収が減ることが確実視されています。こんな中で、20年も先の町の将来像を議論している余裕が町にあるのでしょうか？ 今年度、新幹線新駅誘致の積立は止めました。早晚、町の基金に余裕はなくなり、人件費削減が避けられないと思います。 2. 町に、責任持って財源作りを進める「資質」が不足しています。
提案 36	下記、「行政改革」(財源作り)を早急に進めることを提案します。 1) 不急の設備投資を先送りする。(町長の一般質問の答弁通り) 2) 成果の出ない「計画」を破棄し更新に関わる人件費を削減する。 町の40ヶ近い計画の中に破棄しても困らないものは多い。 3) 学校など公共施設等の管理は原則「外部委託」とする。 4) 徹底したIT化による事務の省力化。マイナンバーカードの活用。(行政改革の担当部署は既に役場内に設けてあります)

(山蔦委員)

課題 37	公聴について 1. 「町長への手紙」、「パブコメ」、「町長との懇談会」など、いろいろな「公聴」が行われていますが、単なる「不満のガス抜き会」だとか「町への要求の受け付け会」だとの声を、町民から聞きます。これらに掛かっている人件費を知っている住民はあまりいません。 公聴した意見(文章)が分かりにくく、全部が全部「建設的な意見」ではないと思います。だから、いわゆる「はぐらかす」回答が多くなるのかもしれませんが、しかし、意見が少ないからといって減らすべきではありません。公聴は住民と行政の大事な接点です。 2. なぜ、近隣市に比べ審議会の公募委員の割合が少ないのでしょうか？ また、委員の発言も少なく、中には議事録に名前を残さないで欲しいと言う委員がいたことがあります。 3. 町は、傍聴者数に制限を設けたりして重要視していません。 4. 議会の責務は「行政の批判と監視」です(議員必携より)。これは、2元代表性の基本です。この議会の機能を町が十分活用しているように思えません。
提案 37	1. 「パブコメ」を義務的に、漠然と行うのではなく、「どの部分について住民の意見が欲しい」と伝えるよう提案します。そうすれば、もっと役に立つ、具体的な意見が町に届くと思います。(パブリックコメント実施要領案：町づくり推進会議：下記参照) https://www.town.samukawa.kanagawa.jp/material/files/group/5/material720200214.pdf 2. 公募委員の発言を活発にするために、次の「方策」を提案します。 1) 公募を掛ける人数を数倍に増やす。高校生まで範囲を拡大する。応募がなければ、その審議会・委員会を一旦廃止する。 2) 委員になるための「学習会」を設け、議論の仕方や財政などを学習する。履修証を発行し、公募委員選定の一つの基準にする。 3) 審議会・委員会の前に、委員の意見を配布しておく。 4) 公聴に掛かる経費(人件費)を委員に知らせる。 3. 傍聴者がいないなど、住民が関心を持たない審議会・委員会は廃止するよう提案します。二宮町では、審議会の委員長が傍聴者から意見を聞いていました。

(内野委員)

課題 38	
提案 38	・庁舎については、老朽化が進んでおり、防災拠点の機能をもった複合施設として整備を行う必要があると考える。

